

令和6年度 京都市市民憲章 推進テーマ(スローガン)及び 実践目標

1 令和6年度の推進テーマ(スローガン)

世代や地域を超えて交じり合い、

みんなの力で新しい京都を切り拓^{ひら}こう

昭和31年5月、京都市市民憲章は、わたしたちのまち・京都を美しく豊かにするために市民が守るべき規範として、市民の手により制定されました。自分の行動を規律し、京都の魅力あるまちづくりに貢献しようという市民憲章の趣旨は、地域や学校、職場などあらゆるところで生かされ、市民一人一人の行動や活動のよりどころとして、重要な役割を果たしています。

令和2年から続いたコロナ禍は、わたしたちの生命と心身の健康、生活スタイル、経済活動に大きな影響を及ぼしました。同時に、コロナ禍を経て私たちは、人と人とのつながり、文化的活動の大切さを再認識するなど、価値観等にも影響がありました。また、今年1月に発生した能登半島地震では、改めて住民一人一人が自ら行う防災活動や、自主防災組織や事業者等の連携による防災力向上の取組の重要性が浮き彫りになりました。

振り返ると、1,200年を超える京都のまちは、疫病・自然災害など都市の存亡に関わるあまたの危機に直面してきた歴史があります。それらを乗り越え、より魅力的なまちへと発展できたのは、京都ならではの住民自治の伝統が市民に広く息づき、引き継がれてきたからです。

一方で、昨今の世界情勢に目を向けると、地球温暖化、デジタル化、世界的な政治の動乱、国家間の対立等により、社会の在り方が大きく変化し、これまでどおりの取組では解決が困難な課題も出てきています。我が国でも、人口減少、少子高齢社会を迎え、担い手不足や地域コミュニティの維持が難しくなっており、これは京都も例外ではありません。

これらの課題を乗り越え、魅力あふれる京都を未来へ引き継いでいくために、京都の最大の強みである文化の力を最大限に活かすとともに、世代や地域を超え、多様な主体と関わり合い、力を合わせることで、地域を元気に、そして、京都の明るい未来を切り拓いていきましょう。

人口減少、少子高齢化、地球温暖化等の本市を取り巻く様々な環境の変化等を乗り越え、魅力と活力あふれる京都を未来へ引き継いでいくことを見据えたテーマ及び趣旨を設定しました。

(1) 自然やまちの美観を守り、緑豊かな美しいまちにしましょう。

豊かな自然と歴史的なまちなみが調和した美しいまち京都。このまちの美観を守り、そこに暮らし続けることは、わたしたちの願いであり、国内外から多くの方を迎える京都市民の使命でもあります。こうした活動を継続し、「世界一美しいまち」を実現するためには、より多くの市民及び事業者の皆様の協力が必要です。

京都のまちを美しくし、訪れる人々を気持ちよくお迎えするため、地域が主体となって取り組んでいる清掃・美化活動や身近な街路樹の世話など、「世界一美しいまち・京都」を築くための取組をみんなで力を合わせて進めていきましょう。

【行動例】

- 日常的な門掃きを心掛ける
- まちの美観を損ねる違反ビラや看板等を出さない・出させない
- 身近な公園や街路樹などの花や緑を育てる
- 自転車等の放置やごみの不法投棄をしない・させない
- 路上喫煙や吸殻等のポイ捨てをしない・させない
- 収集場所にネットを設置するなどごみの散乱防止に努める

トピック

<まちの美観>

「世界一美しいまち・京都」の実現を目指し、市民や事業者の皆様が協働で、門掃き、ごみのポイ捨て禁止等の呼び掛けや不法投棄等のまちの美観を損なうものの一掃に積極的に取り組んでおり、自然や美観を守る活動の輪が着実に広がっています。

- ・令和5年度(2月末時点) 美化活動に参加した市民ボランティアの人数：145,911人
- ・令和5年度(2月末時点) 市民ボランティアによる美化活動実施：1,567回

<街路樹サポーター制度>

「世界で最も美しい都市・京都」の実現を目指し、市民と京都市が連携し、街路樹がすこやかに生育するよう、街路樹、植樹帯及びその周辺部の美化や緑化に取り組む「京都市街路樹サポーター制度」が推進されています。

サポーターの主な活動内容は、次の3点です。

- (1) 落ち葉清掃や除草など、街路樹、植樹帯及びその周辺部の美化活動
- (2) 街路樹の落下枝、病虫害等に関する京都市への情報提供
- (3) 京都市と協議の結果認められる場合は、植樹帯への草花の植栽などの緑化活動
(3)は、1年以上活動実績があるサポーターが対象

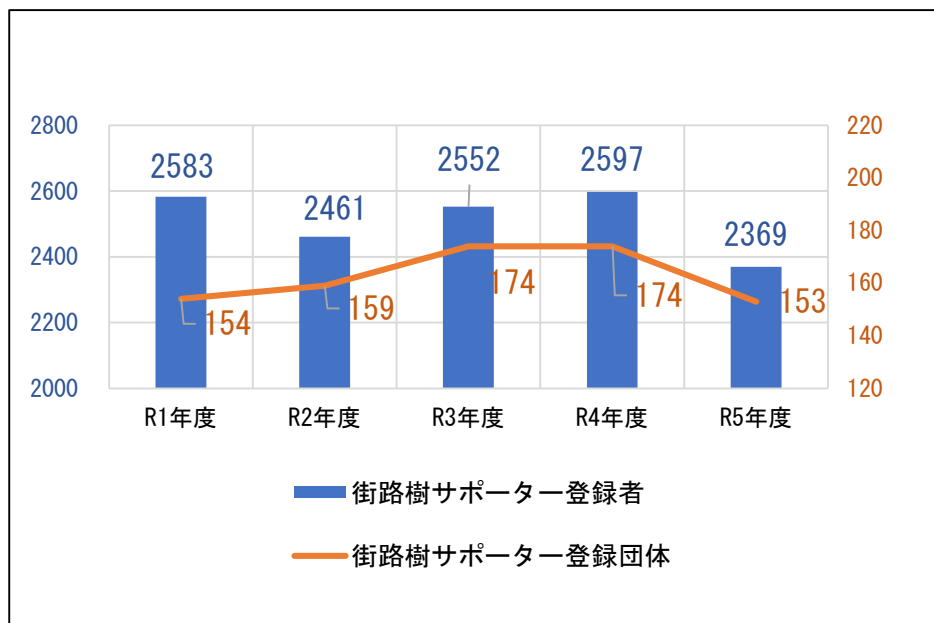


京都府庁前のケヤキ（上京区）



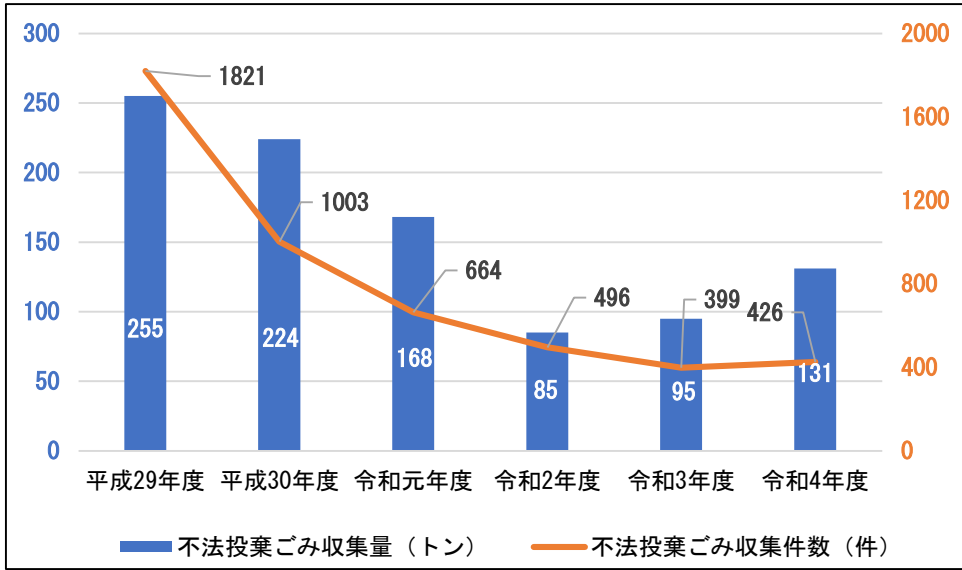
桂坂のモミジバフウ（西京区）

●街路樹サポーター登録状況



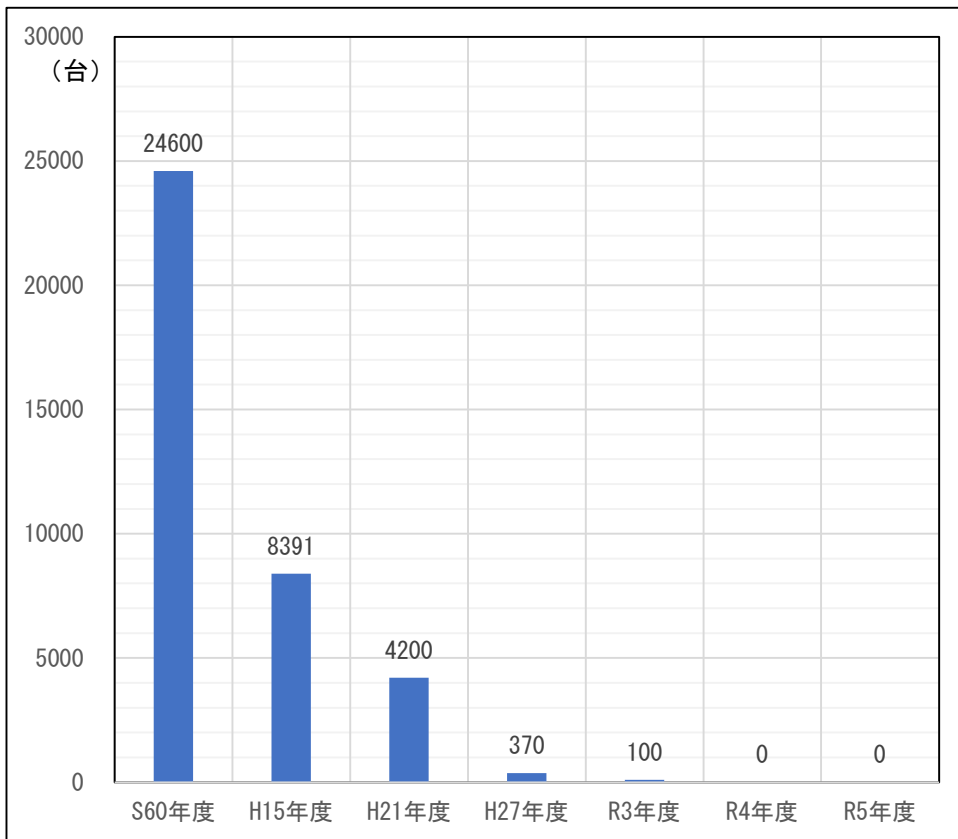
【その他参考データ】

●不法投棄ごみ収集件数・量



●駅周辺の放置自転車台数

※鉄道駅周辺に100台以上放置されている駅についての調査



(2) 地球の未来を守るため、環境にやさしい身近な取組から実践しましょう。

令和元年5月、京都市は、全国に先駆けて「2050年CO₂排出量正味ゼロ（ゼロカーボン）」を目指すことを宣言。また、当時の環境大臣等と共同で、世界の平均気温の上昇を1.5℃以下に抑えるべく、あらゆる方策を迫及し具体的な行動を進めていくことを世界に訴える「1.5℃を目指す京都アピール」を発表しました。

「2050年CO₂排出量正味ゼロ」の達成に向けて、私たちは、京都議定書誕生の地としての誇りと千年に亘り自然と共生してきた生活の文化を大切に、次の世代に引き継げるよう、一人ひとりが考え、行動する必要があります。

京都が育んできた文化や伝統には多くの示唆があります。例えば、京の食文化。食品ロスによって排出される温室効果ガスの量（CO₂換算）は年間36億トンと言われており、世界の温室効果ガス排出量の約8%を占めます。そこで、一汁三菜、地産地消、旬のものを食べる、食材を無駄にしない、そうした自然との共生の中で育まれた京の食文化には、自ずとCO₂の削減につながる知恵が含まれています。

これからも、ごみの減量やエネルギーの節約を心掛けるなど、毎日の暮らしの中で、身近な取組を実践していきましょう。持続可能なまちをつくり、次世代に引き継ぐためには、私たち一人ひとりの行動が不可欠です。

【行動例】

- ごみの分別の徹底など、ごみ出しのルールを守る
- コミュニティ回収など、地域の集団回収を利用し、古紙類や古着類、使用済てんぷら油などの回収・リサイクルに協力する
- 資源物回収拠点を利用し、小型家電など資源物の回収・リサイクルに協力する
- 手付かず食品や食べ残しなどの「食品ロス」をなくす
(すぐに食べる場合は、賞味・消費期限が近いものを購入する「てまえどり」を実践する)
- 宴会の開始後30分と終了前10分は、料理を楽しみ、食べ残しをなくす
「30・10運動」を広げる
- マイバッグ、マイボトル、リユース食器などのエコグッズを使用し、ペットボトルをはじめとする使い捨てプラスチックの削減に努める
- 使いキリ、食べキリ、水キリの「生ごみの3キリ運動」を広げる
- 急発進・急加速をしないなどエコドライブを実践する
- 太陽光発電システムなど、創エネ・省エネ設備を導入する

○クルマの使用を控え、公共交通機関(市バス・地下鉄など)や自転車(シェアサイクル、レンタサイクルを含む)を利用する

○冷暖房は、適正な室温管理(※)の範囲で活用するなど、節電を心掛ける

※ 適正な室温 … 環境省の「クールビズ」では、「適正な室温」の目安を28℃とされています。これは、必ず「28℃」ということではなく、冷房時の外気温や湿度、「西日が入る」などの立地や空調施設の種類などの建物の状況、室内にいる方の体調等を考慮しながら、無理のない範囲で冷やし過ぎない室温管理をお願いする上で、目安とされているものです。例えば、冷房の設定温度を28℃にしても、室内が必ずしも28℃になるとは限りません。そういう場合は、設定温度を下げることも考えられます。なお、「クールビズ」で呼び掛けられている室温の目安「28℃」は冷房の設定温度のことではありません。

(参照元：環境省 HP 「Cool Biz」について)

<https://ondankataisaku.env.go.jp/coolchoice/coolbiz/>



トピック

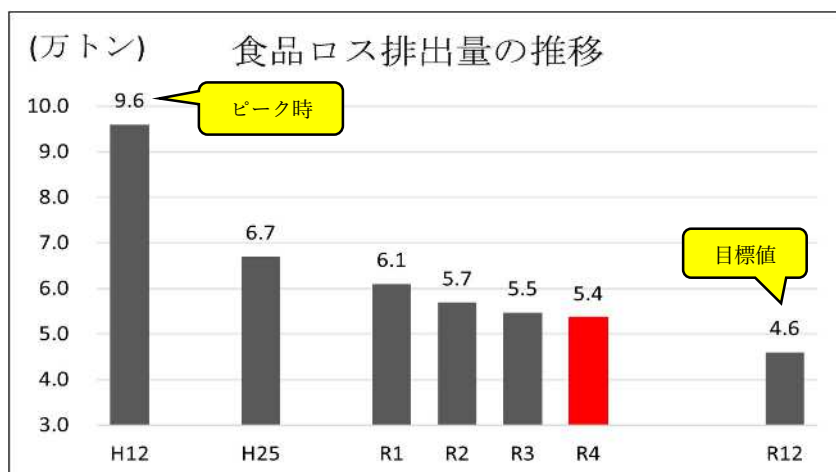
<てまえどり>

食品を購入するときに、すぐに食べる場合は、商品棚の奥からではなく、手前の商品(消費期限・賞味期限の近い食品)から取り、購入する消費行動。店舗で期限切れにより廃棄される食品を減らすことで、食品ロス削減につながります。



てまえどり啓発ポスター

●京都市の食品ロス発生量



<脱炭素先行地域>

国が進める「脱炭素先行地域」に選定された京都市の計画「京都の文化・暮らしの脱炭素化で地域力を向上させるゼロカーボン古都モデル」に基づき、訪れてよし、商ってよし、住んでよしの持続可能な賑わいの創出に向けて、市民及び事業者の皆様と連携し、文化遺産、商店街、住まい等の脱炭素転換に取り組んでいます。

(※)環境省「脱炭素先行地域」

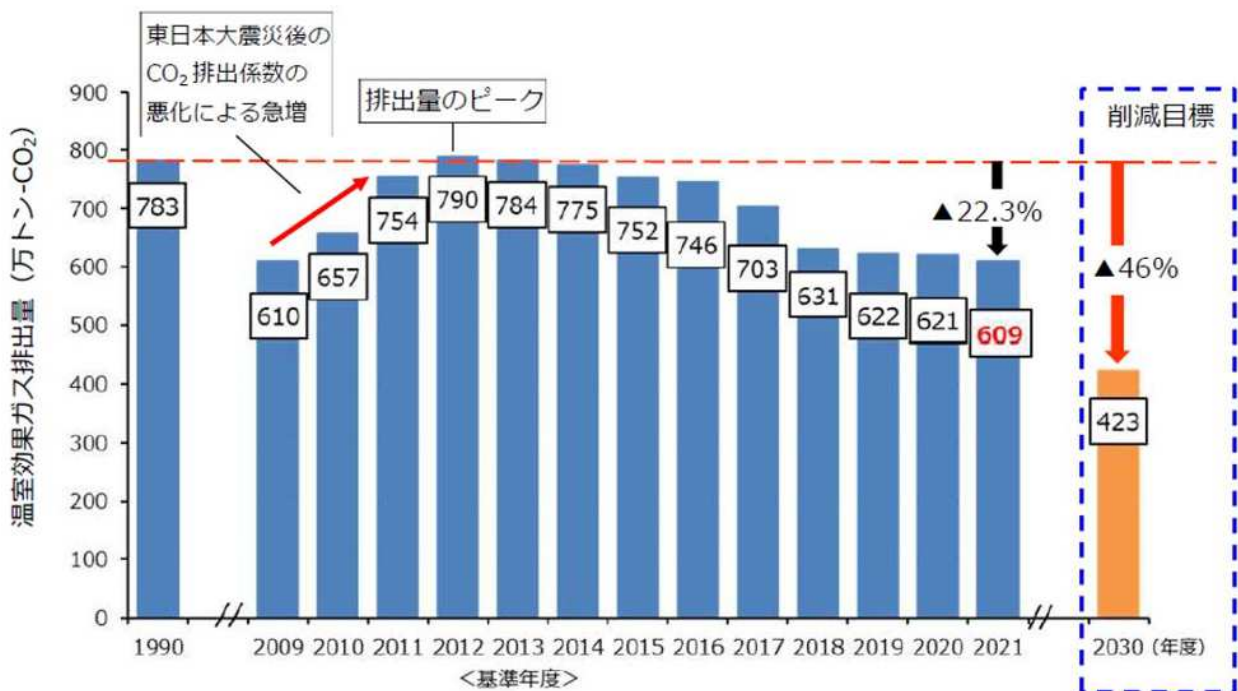
2030年度までに民生部門（家庭部門及び業務その他部門）の電力消費に伴うCO₂排出実質ゼロ等を目指す地域。

令和5年度末時点で、全国36道府県94市町村の73提案が選定されています。

<https://policies.env.go.jp/policy/roadmap/preceding-region/#about>

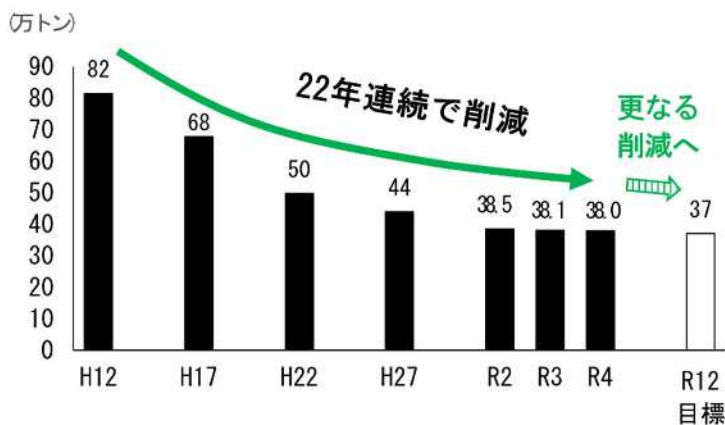


●京都市域からの温室効果ガス排出量



【その他参考データ】

●ごみ量（京都市受入量）



令和4年度のごみ量（市受入量）はピーク時（平成12年度、82万トン）から22年連続で減少し、38万トンとなっています。

また、令和4年度の京都市の一人一日当たりのごみ量は757gと、全国の政令市で最少です（政令市平均*：894g）。

※環境省調査より

(3) 人とのつながりを大切にし、誰もがいきいきと暮らせる持続可能なまちをきずきましょう。

人口減少、少子高齢社会の進行、価値観の多様化で地域のつながりが希薄になったと言われる中、令和2年から続いたコロナ禍や、今年1月に発生した能登半島地震では、人とのつながりや、互いに支え合うことの重要性が再認識されました。市民一人一人が他者を思いやり、行動することで、誰もがいきいきと暮らせる地域社会にしていきましょう。

【行動例】

- 笑顔であいさつをする、町内会に参加するなど地域とのつながりを常日頃から大切にする
- 地蔵盆など、地域の行事に家族や地域の方と参加する
- 子育て世代、お年寄りや障害のある方、生きづらさを抱えた方などを地域のみんなで支える
- 健康寿命を伸ばすため自発的に健康づくりに取り組む
- 自転車に乗るときはヘルメット着用に努め、交通ルールやマナーを守って運転する
- 交通ルールの啓発活動、登下校時の児童への声掛けなど子どもを見守る
- 災害を想定し、3日以上の食料や生活必需品を備蓄する
- 家具の固定など、すまいの地震対策を進める
- 住宅用火災警報器の設置・点検を行い、火災予防に努める
- 宅配便の再配達を減らすため、宅配ボックス等を積極的に利用する
- 飲食店や施設を利用する際は、なるべく事前予約を利用する

トピック

<地震対策>

令和6年1月に発生した能登半島地震では、建物の倒壊等による救助や物資輸送の困難性、地域における防災などの重要性が改めて浮き彫りになりました。すまいの耐震診断を受ける、各家庭や事業所で3日以上（7日以上が望ましい）の食料や生活必需品等を備蓄するなど、これまでの被害を教訓に、平時からいざ起こるかもしれない大地震に備えることが大切です。

●京都市の住宅の耐震化率

平成27年度末：84.7% → 令和2年度末：90.0%

<防火対策>

京都市の令和5年の火災件数は220件で、7年ぶりに前年比増に転じました。出火原因で最も多いのは「たばこ」で、次いで「こんろ」となっています。

●京都市の火災件数



●京都市の主な出火原因別火災件数

(単位：件)

	たばこ	こんろ	たき火 (火の粉含む)	放火 (疑い含む)	電機 器具	天ぷら なべ	暖器	房具	ガス・ 油類引火
令和5年	33	26	20	18	14	13	10	10	
令和4年	27	12	11	16	21	6	7	2	
増減	+6	+14	+9	+2	-7	+7	+3	+8	

<消防団の活動>

京都市の消防団は、各行政区に設けられた11の消防団と概ね学区単位に設けられた205の消防分団をもって組織されています。消防団は、京都市消防局との力強い連携により、火災、震災、その他非常災害時における警戒防御活動を行うとともに、市民の防火・防災に対する意識と対応力を高めるため、昼夜を分かたず活動しています。

〔消防団員数：4,119名（うち女性524名、学生163名）〕

※令和6年4月時点



京都市消防団エンブレム

(平常時の活動)

地域の防火・防災リーダーとして、自主防災組織など地域住民の災害対応力を向上させるために指導や訓練を行うとともに、地域の訪問防火指導や巡回パトロール、応急手当の普及啓発等を実施しています。

(火災現場活動)

火災現場では、警戒区域の設定と群衆整理、人命救助と避難誘導、物件の搬出と保護、飛び火の警戒、消火活動の支援、鎮火後の警戒などを行います。

また、火災の状況により、配置器材を活用した消火活動を行って早期鎮圧を図り、消防局と協力して活動を行います。

(震災等非常災害時の活動)

阪神・淡路大震災を契機に市内の全消防分団に配置した小型動力ポンプや救助器材などの装備を活用して、震災その他の大規模な災害時に消火活動や救助活動などを行います。

<2024年問題>

昨今、全国的に人口減少、少子高齢化、労働力人口減少による担い手不足が課題となっており、本市においても、公共交通の担い手不足やエッセンシャルワーカー（日々の生活を維持するために不可欠な仕事（医療機関、福祉分野で働く方のほか、生活必需品などを扱う事業者））、文化・観光の担い手不足は深刻化しています。特に物流・運送業においては、時間外労働の上限規制などの労働基準の見直しによって生じる労働力不足などの問題（2024年問題）が懸念されています。

例えば、宅配便を受け取る際は時間指定や宅配ボックスを利用することで、配達回数を減らすことができ、トラック運転手の労働環境の改善につながります。「ありがとう」「おかげさま」「お互いさま」の真心を持ち、他者への心遣いある行動を心がけましょう。



京都市内において路線バス・タクシー乗務員として働く、新しい担い手の発掘を目的としたキャンペーンを実施（令和6年1月29日から）



バス運転手人材確保の取組として、（一社）京都府バス協会において、バス運転手の勤務実態や魅力を発信するイベントを実施

(4) 世界に誇る京都の文化や伝統を大切に守り伝えましょう。

約40年前、京都市の都市理念として、文化による世界平和の実現を希求した「世界文化自由都市宣言」を掲げました。「広く世界と文化的に交わることによって、優れた文化を創造し続ける永久に新しい文化都市―」国や地域を問わず、様々な人々と交流する中で、私達自身のもつ文化に改めて気づきます。今一度、宣言の今日的意義や京都が果たす役割について、一人ひとりが考え、行動することは平和にもつながります。

令和5年、様々な人々が集い、文化を生み出してきた京都に、文化庁が全面的に移転しました。文化による地方創生、日本文化の一層の発展に向けて、京都に課された役割は非常に大きいものがあります。京都に息づく様々な文化を大切にし、後世に受け継いでいくことは、京都のまちに愛着を持つことにもつながります。文化都市の継承と発展は、私たち京都市民が果たすべき大切な使命と言えるでしょう。

【行動例】

○多様な文化を受け入れ、お互いの理解・尊重に努める

○多彩な京都の文化や伝統、まちの歴史を学ぶ

○伝統文化・伝統芸能等を鑑賞するなど文化に触れることで理解を深める

○花を活ける、お茶を点てるなど、暮らしの中で文化を楽しむ

○文化財の保存活動に積極的に協力する

○日常生活の中に伝統産業製品を取り入れる

○大切にしてきた衣食住などの知識や経験を次の世代に伝える

○京都のまちづくりの歴史や町衆の文化を学ぶ

○京町家の保全及び継承を推進する

トピック

<文化財保護>

京都市は、世界遺産「古都京都の文化財」を構成する14の社寺城（うち延暦寺は滋賀県大津市にまたがる。）をはじめ、日本国における国宝の19.0%、重要文化財の14.2%を擁し、古代以来の遺跡の上に現代都市が成立する、世界でも有数の歴史都市です。洗練された王朝文化だけでなく、人々が安寧を願って催す祭りや習俗、暮らしの中で知恵や技を磨き育んできた生活文化、地域ごとのなりわいが創り出した景観など、文化に根差す京都の魅力は尽きることはありません。

（京都市内における国宝及び重要文化財：国宝216件、重要文化財1,908件）※令和6年4月時点

<文化芸術>

コロナ禍を経て、改めて文化芸術の重要性が再認識されました。例えば、花を活ける、音楽を聴く、舞台を観るといった文化芸術活動はもちろん、季節に合ったお菓子とともにお茶を楽しむ、スポーツに取り組むなど、身近な活動によっても心豊かな毎日を過ごすことができます。

また、明治13年に日本で最初の公立の絵画専門学校として創設された「京都府画学校」を起源とし、140年以上にわたり、文化芸術の発展に貢献してきた京都市立芸術大学が、令和5年10月に京都駅東部エリアへ移転しました。京都駅周辺の魅力あるまちづくりが進むとともに、京都駅東部エリアが文化芸術を創造し、様々な人が集い、交流し、まちが賑わい、世界に発信する、「文化芸術都市・京都」の新たなシンボルゾーンとなることを目指しています。



(5) 旅行者との心の触れ合いを大切に、京都ならではの「おもてなし」を実践しましょう。

京都には 1,200 年以上の歴史と昔から継承されてきた暮らしの文化、生き方の哲学が今も息づいています。それが世界的に評価され、コロナ禍以前、京都市を訪れる観光客数は 7 年連続（平成 25 年～令和元年）で 5,000 万人を超えました。日本人・外国人ともに 90% 以上が京都観光に満足しており、多くの観光客が「京都のおもてなし」に感動されています。これは、市民の皆様が日常的に温かく旅行者をお迎えしてきた証です。

京都にとって観光は、雇用・経済の基盤として、市民生活の暮らしや豊かさの向上に貢献する重要な産業の一つです。一方で、一部観光地の混雑等の観光課題が市民生活に影響を及ぼしてきたことも事実です。今後、京都観光がさらに回復していく中で、観光事業者・従事者等、観光客の方々、そして、京都に住むわたしたちが、お互いを尊重しながら、持続可能な京都観光を共に創りあげていかなければなりません。

市民の暮らしと観光の調和の中で、訪れる方が京都に理解と愛着を持って行動し、京都で良い体験をしていただくためにも、わたしたち自身が京都のまちを大切に、京都に対して誇りを持ち、「おもてなしの心」で旅行者をお迎えしましょう。

【行動例】

○観光案内や道案内を積極的に行う

○異文化に触れ、様々な国の文化への理解を深める

○京都の文化・習慣を国内外から訪れる人に伝え、市民生活と調和した行動を促す

＜観光客の方に促す行動例＞

- ・ マイボトルを持参することで、環境に配慮した観光を行ってもらう
- ・ 人が多い日中ではなく、人が少ない早朝に社寺拝観を行う等、混雑を避けることで、静寂の中、じっくりと京都の魅力に触れてもらう
- ・ 公共交通機関(市バス・地下鉄など)を上手に組み合わせて混雑を避けてもらう
- ・ 大きな荷物は、宿泊施設まで荷物を運ぶサービスを利用し、周りに迷惑を掛けず、スマートに散策してもらう
- ・ 文化財の奥深い魅力や大切さはもちろん、歴史や文化財保護など、目では見えない情報も学び、今日まで在る理由を後世につないでもらう
- ・ 持ち帰るお土産は、歴史や職人、文化を知った上で購入し、秘められた文化や想いについての説明を添えて渡してもらう

トピック

＜京都観光行動基準（京都観光モラル）＞

京都が京都であり続けるために、観光事業者・従事者等、観光客、市民がお互いに尊重しあい、持続可能な京都観光を一緒に創りあげていくことを目指し、令和2年11月に策定されました。



「京都観光モラル」観光客に向けた啓発ポスター例

[別添：参考資料]

- ・リーフレット「京都観光行動基準（京都観光モラル）《観光客編》」
- ・リーフレット「京都「手ぶら観光」のススメ」

＜乗合タクシーの実証実験＞

秋の観光シーズンに、タクシー乗り場で発生する乗車待ちの改善のため、(一社)京都府タクシー協会において、京都駅から金閣寺に行く乗合タクシーの実証実験を実施。(令和5年9月30日～11月26日)

<臨時手荷物預かり所>

秋の観光シーズンにおける観光課題対策として、国土交通省近畿運輸局が、京都市・民間事業者と連携し、京都駅で、手荷物の一時預かりサービスを実施しました。令和5年11月18日(土)、23日(木・祝)～26日(日)、12月2日(土)、3日(日)の7日間で合計2,836個の荷物を預かり、ピーク時には1日に719個の預かり実績がありました。



アンケート調査では、臨時手荷物預かり所に手荷物を預けたことで行動範囲が「広がった」「少し広がった」と答えた割合が95%になるなど、手ぶら観光により、観光の快適性及び利便性が向上し、観光客の行動範囲が広がりました。

【その他参考データ】

●観光客数等の推計（令和4年（2022年）観光客の動向等に係る調査から抜粋）

	令和4年	令和3年	(参考) 令和元年 京都観光総合調査結果
観光客数	4,361万人	2,102万人	5,352万人
観光消費額	1兆179億円	4,457億円	1兆2,367億円
経済波及効果	1兆1,040億円	4,885億円	1兆3,569億円

※令和3年の観光客数、令和4年、令和3年の観光消費額及び経済波及効果は、本市独自推計値であり、他の年との時系列による比較はできません。

※観光客とは、観光目的だけでなく、ビジネス、買物、イベント、観劇、スポーツ、友人・知人訪問等の目的で入浴した人を指し、市外在住で通勤、通学以外の目的で入浴した人全てを含みます。

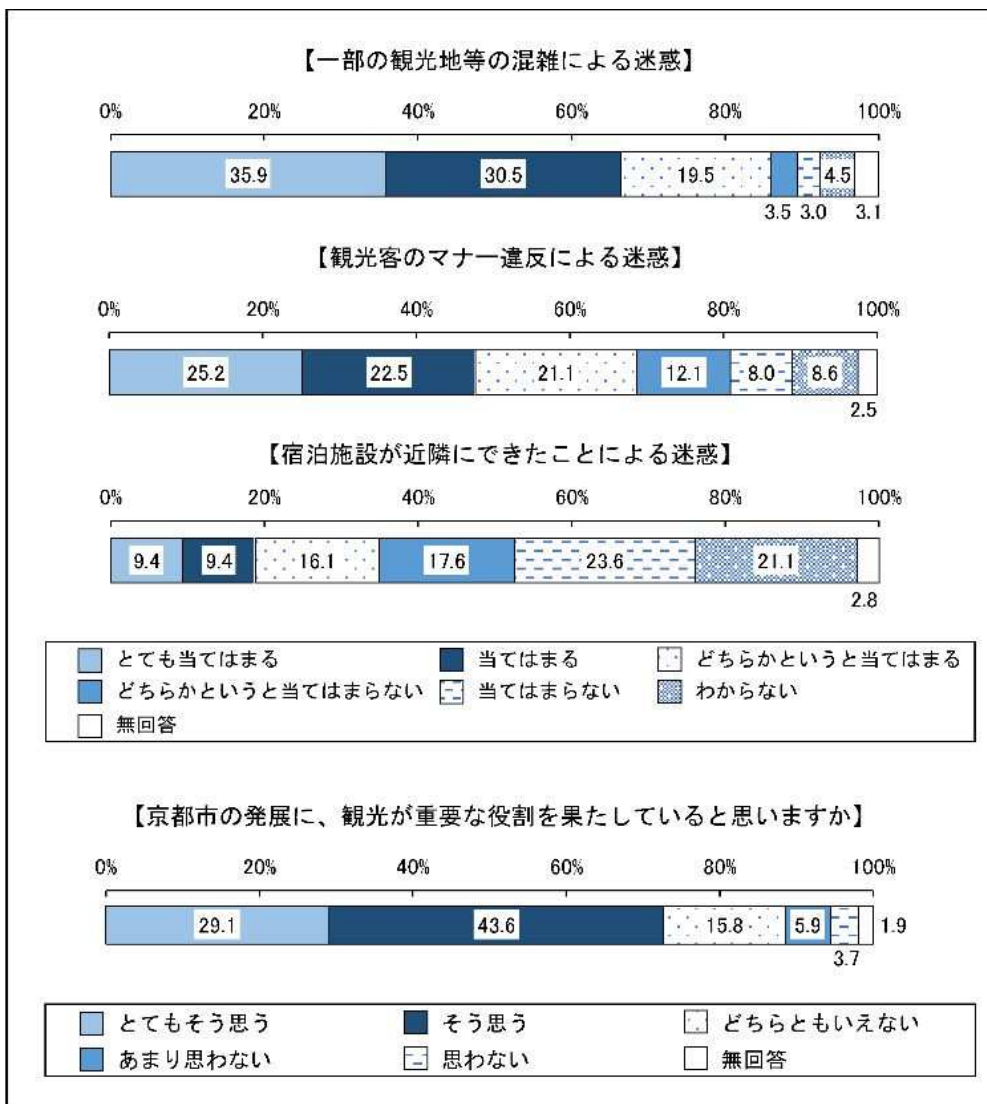
●観光客の動向等（令和4年（2022年）観光客の動向等に係る調査から抜粋）

	令和4年 ※（）内は過去2年との比較	令和3年	令和元年
宿泊客数	969万0千人 (R3比：187.5%) (R1比：73.6%)	516万8千人	1,316万6千人
外国人宿泊客数	57万6千人 (R3比：1066.7%) (R1比：15.2%)	5万4千人	379万9千人
修学旅行生数	74万3千人 (R3比：302.0%) (R1比：105.5%)	24万6千人	70万4千人

※外国人宿泊客数には日本在住の外国人も含みます。

●京都観光に関する市民意識（令和5年調査から抜粋）

- ・「一部観光地やその周辺等が混雑して迷惑した」
→「とても当てはまる」「当てはまる」の割合の合計：66.4%（R4：60.4%）
- ・「観光客のマナー違反によって迷惑した」
→「とても当てはまる」「当てはまる」の割合の合計：47.7%（R4：38.5%）
- ・「宿泊施設が近隣にできたことに伴う良くない影響により迷惑した」
→「とても当てはまる」「当てはまる」の割合の合計：18.8%（R4：16.9%）
- ・「京都市の発展に、観光が重要な役割を果たしている」
→「とてもそう思う」「そう思う」の割合の合計：72.7%（R4：72.9%）



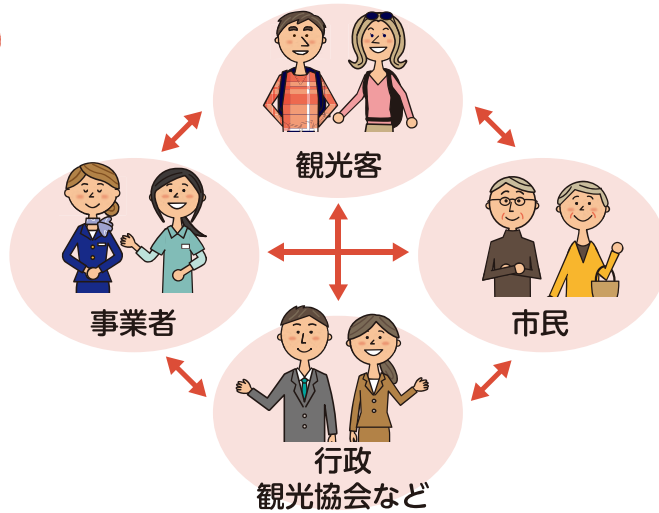
京都を より深く味わい 楽しむための 京都観光行動基準

(京都観光モラル)

観光客編

京都が京都であり続けるために、そしてこれからもより皆様に京都を深く味わい、楽しんでいただくために、観光と市民生活がより調和し、京都の文化や美しい景観が守られ、地域の発展やSDGsの推進にもつながる持続可能な観光の実現を目指しています。

観光客の皆さまに、京都をより深く味わい、楽しんでいただくことと、京都が魅力的なまちであり続けることを両立していくために、観光事業者・従事者や市民とともに大切にしていきたいこととして、この行動基準を策定しました。



観光客の皆様と大切にしていきたいこと

京都の観光業界で働く方々、京都に住まう市民の方々、そして京都を訪れる観光客の皆様とともに、思いを一つに、未来につなぐ京都観光を創りあげましょう。

地域を思いやる

【行動例】 地域住民にとっての信仰の場では適切に振る舞う



環境・美しい街を守る

【行動例】 ゴミのポイ捨てをしない



人とふれあう

【行動例】 京都の人と話し地域に息づく魅力に触れる



“もしも”に備える

【行動例】 宿泊施設での避難経路、避難場所の事前確認



京都「手ぶら観光」のススメ

スーツケースなどの大きな手荷物をバスや電車に持ち込むことによって、車内が混雑し、本来乗車できるはずの市民が、乗車できないなどの問題が生じます。
誰もが快適に公共交通を利用できるように、ぜひ「手ぶら観光」をご活用ください!



手荷物を預けないと...

周囲が迷惑します

観光や買い物が不便です

騒音が迷惑となります

手荷物を預けると...

車内も悠々

手ぶらで観光

荷物はホテルで受け取ります

※大型荷物を預けられない場合は、タクシーや電車の利用をご検討ください。

A~Dで手荷物の配送、一時預かりを実施中!
(Cは手荷物配送のみ実施)

京都駅周辺の地図

A JR京都駅新幹線八条口
B JR京都駅新幹線八条口 デリバリーサービス
C Crosta 京都(地下1階)
D 馬丸通 タクシー乗り場

手ぶら観光情報サイト

手荷物を預けられる場所や料金などの情報はコチラ

京都駅ロッカー空き状況

ロッカー
コンシェルジュ
Locker Concierge

※一部のサービスでは「市内宿泊施設から市内宿泊施設」「京都駅から関西空港」への配送も可能です。詳細は、各サービスのWEBサイトをご確認ください。
※市内各駅に設置されている一時預かり用のロッカーもご利用ください。なお、京都駅内のロッカー空き状況の確認は「ロッカーコンシェルジュ」が便利です。(右記の二次元コードからアクセスすることができます)

19